

安全の手引き

令和5年1月

在ルーマニア日本国大使館

目 次

ルーマニア在留邦人の皆様へ	3
I 防犯の手引き	4
1 基本的な心構え	4
2 最近の犯罪発生状況	4
3 住居の安全対策	6
4 自動車の安全対策	7
5 外出時の安全対策	8
6 犯罪被害に遭ってしまったときの措置	10
7 デモ発生時の注意事項	11
8 野犬対策	11
9 交通安全対策	11
10 テロ・誘拐・爆弾対策	14
11 自然災害対策	15
II 緊急事態対処マニュアル	17
1 平素の心構えと準備	17
2 緊急事態発生時の行動	18
3 緊急連絡先	19
4 緊急時のルーマニア語	19
別添 緊急時事態に備えてのチェックリスト	21

ルーマニア在留邦人の皆様へ

2022年は、2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻により、当地にも多くの避難民が入国してきました。侵攻開始から約10か月が経ちましたが、依然として事態終結への見通しが立たず、侵攻の影響による物価高騰などにより、市民生活に少なからぬ影響を与えています。

一方、ルーマニア政府による新型コロナウイルス対策に関する規制は3月に終了し、市民生活は以前の状況を徐々に取り戻しつつありますが、世界的に見れば、新型コロナウイルスの感染状況は決して楽観視できるものではなく、予防・対策は必要です。特に、休暇や出張などで日々の生活圏を離れ、感染者が多く発生している国・地域へ行く際には、用務地における規制・ルールを遵守するのみならず、自分でできる防疫対策を十分に講じるようお願いいたします。

身の回りの安全に関し、ルーマニアは欧州の中でも比較的治安の良い国です。しかしながら、スリ、置き引き、ひったくりなどの街頭犯罪への注意を怠ってはいけません。また、犯罪以外にも、交通事故（日本より道路状況や交通マナーが悪い）には特に注意を要しますし、首都ブカレスト周辺で大地震が発生する可能性が高まっていると言われています。

こうした環境の中、当地で安全な生活を送るためには、「自分や家族の安全は自分達自身で守る」という意識を常に持つことが重要です。当館では、ルーマニアに在住または来訪されている邦人の皆さまが事件や事故に巻き込まれることのないよう、また、地震などの緊急事態が発生した際に被害を最小限に抑えられるよう「安全の手引き」を作成しています。

皆様にあっては、家庭や企業の事情を踏まえて安全対策を考えていただく際、本手引きをご活用いただき、ルーマニアでの滞在が安全なものとなることを、大使館一同、切に願っております。

在ルーマニア日本国大使館

I 防犯の手引き

1 基本的な心構え

○ 自分自身の安全は自分自身で守る

安全は誰かが確保してくれるものではなく、自分と家族の安全は自分達で守るという心構えが必要です。「自分は大丈夫」と思わず、危険は常に隣り合わせという意識を持ちましょう。

○ 被害防止を念頭に置く

被害防止を常に念頭に置き、家を出る際や車を降りる際は施錠を確実に行うほか、財布を取り出す際は周囲を確認するなどの警戒意識を習慣づけましょう。

○ 安全のための三原則を意識する

ルーマニアの文化、風俗、価値観を十分考慮しながら、犯罪被害に遭わないための3つの基本原則

「目立たないようにする」、「行動を察知されない」、「用心を怠らない」を意識してください。

・「目立たないようにする」

目立つ格好や言動は避け、出来るだけ周囲の環境に合わせる。また、日本人がいるだけで目立つような裏通り、治安の悪い地域、デモが行われている場所への立ち寄り、極力避ける。

・「行動を察知されない」

外出の時間、経路、交通手段などのパターン化を避け、意図的に変化させる。また、外出する際は、外出先、外出目的、戻る時間などを身近な人に伝える。

・「用心を怠らない」

日頃から、危険な人物、乗り物、場所などを意識して行動し、潜在的な危険を避けて行動する。特に、夜間の一人歩きは極力避ける。

このほか、緊急時に備え、携帯電話で連絡が取れるようにしておきましょう。ルーマニアの緊急電話ダイヤルは「112」番（案件に応じて、各事案の担当機関《警察、救急》が対応）です。

2 最近の犯罪発生状況

(1) ルーマニアの一般犯罪発生状況

ルーマニアは、欧州の中でも比較的治安の良い国ですが、スリ、ひったくり、置き引き、自動車盗などの身近な街頭犯罪に注意が必要です。

地域的には、ブカレスト市を始めとする大都市での犯罪が多く発生しています。ブカレスト市内では、鉄道の北駅、旧市街などの観光地区、大型ショッピング

グセンターなどにおけるスリや置き引き、路上におけるひったくりなどの犯罪が昼夜を問わず発生しています。

(2) 最近の邦人犯罪被害件数など

当館で把握した邦人犯罪被害件数は、2022年中は2件（置き引き1件、暴行1件）でした。新型コロナウイルスに係る規制のために旅行者が少なかった2021年は1件（スリ未遂）、2020年中は0件でしたが、2019年には4件（スリ3件、ひったくり1件）、2018年中は2件（偽警察官、自動車盗）、2017年は3件（スリ2件、置き引き1件）が報告されています。被害にあわないよう、十分ご注意願います。

(3) 犯罪被害例

○ スリ

- ・観光地の飲食店で、入口の回転ドアに入ったところ、犯人が無理矢理一緒に入ってきて、上着ポケットの財布を盗まれた。
- ・バッグを肩にかけて地下鉄階段を上っていたところ、後方から来た犯人にバッグ内の財布を盗まれた。

【対策】

- ・貴重品は、上着やズボンの外ポケットに入れない。
- ・バッグなどは、ファスナーなどを必ず閉め、身体の前側で持つ。
- ・身体を押されたり、触られたりした場合は、速やかに貴重品の確認を行う。

○ 置き引き

- ・喫茶店内の座席周りにバッグを置いて（掛けて）いたところ、気付かないうちにバッグが盗まれていた。
- ・列車内で居眠りしていたところ、バッグ内から貴重品を盗まれた。
- ・駅で路上にバッグを置いて写真撮影をしていたところ、犯人が駆け足で近づいてきてバッグを盗まれた。

【対策】

- ・飲食店や喫茶店で座席に着く際、バッグは自分の視界に入る位置に置く。
- ・居眠りや携帯電話の操作などで所持品から目を離さない。
- ・短時間でも、所持品を身体から離さない。

○ 偽警察官

一般人を装う人物から「両替をしてくれないか」などと声をかけられ、次に後から来る私服の警察官と名乗る人物から、違法両替など理由をつけて所持品検査を要求され、所持品を渡した間に現金などを盗まれた。

【対策】

本物の私服警察官は、路上での職務質問や所持品検査は行わないことから、この種の声をかけられた場合には、警察官のような服装をした者であっ

ても、「日本大使館で話を聞きます」などと言って速やかにその場を離れる。

○ タクシーの高額料金請求

駅構内で親切を装って声を掛けられ、タクシーに案内され利用したところ、到着時に高額料金を請求された。

【対策】

見知らぬ人に話しかけられても、みやみに信用しない。

○ ひったくり

深夜、幹線道路ではない路上を一人でスーツケースを引いて歩いていたところ、スーツケースをひたたくられて盗まれた。

【対策】

- ・深夜の一人歩きを避ける。
- ・時間帯を問わず、人通りの少ない場所の徒歩移動を避ける。

なお、犯罪被害に気付いた場合でも、相手が刃物などの凶器を持っている可能性があるため、身の安全を最優先にしてむやみに逆らわないことも時に必要です。

3 住居の安全対策

住居を選ぶときは安全面を重視し、契約前に実際に建物・部屋の設備や周辺の環境を調査しましょう。また、入居後も防犯対策について日頃から点検しましょう。

(1) 住居選定のポイント

- ・一般的に、集合住宅で3階以上に位置する部屋が比較的安全とされています。ルーマニアは地震国であることも念頭に置き、築年数や耐震構造についても契約前に確認しましょう。
- ・管理人や警備員が常駐しているほうが安全です。警備員が配置されている場合の勤務時間や配置場所を確認しておきましょう。
- ・夜間、屋外照明により明るさが保たれているほうが安全です。照明は、侵入者に対する威嚇効果がありますので、一戸建て住宅に居住する際には、大家さんに事前に相談することも一案です。
- ・住居敷地外周の外壁構造、高さも事前に確認しましょう。また、隣家の屋根伝いに侵入される可能性もありますので、各窓から見える外周も確認すべきです。
- ・物件所有者・管理人などの信頼度と安全に対する理解度を確かめましょう。トラブルが発生した際に備え、大家さんや管理人にすぐに連絡できる体制があることはとても重要です。

(2) 施錠設備の注意事項

- ・入居時には、玄関などの施錠設備が十分（2重ロックやチェーン錠の有無）で

あるかを確認し、不十分な場合には、増設又は交換することを大家さんや管理人に依頼しましょう。

- 鍵を紛失した場合は、錠前を交換するよう管理人や大家さんに依頼しましょう。
- 予備鍵は人目に付かない場所に保管するほか、適正な管理をする上で、必要以上に予備鍵を作成しないことも重要です。

(3) 外出時の注意事項

- 外出時は、ドアスコープなどで屋外の安全を確認してから扉を開けましょう。
- 帰宅時は、ドアが開錠されていないかなど異常の有無を確認してから扉を開けましょう。施錠してたはずのドアが開錠されていた場合は、安易に室内に入ることなく、管理者を呼んだり、警察に通報したりするなどして、自分又は家族だけの対応をしてはいけません。
- 長期不在にする場合は確実に施錠したうえで、室内の照明を点灯させるなど「人が生活している」と思わせることも侵入犯罪防止に効果があります。また、身近な信頼できる人に不在となることを連絡し、可能であれば適時の点検（ドアや窓の破損の有無）などを依頼しましょう。

(4) 家族の安全に関する留意事項

- 子供の通学、屋外で遊ばせる際には常に親や信頼できる大人が側に付き添い、目を離してはいけません。
- 家族が全員の行動、居場所を常に把握し、直ちに連絡が取り合えるようにしておきましょう。

4 自動車の安全対策

(1) 駐車場所の選定

- 駐車場に駐車し、路上への駐車はできるだけ避けましょう。
- 駐車場内でも、照明のない場所や、監視カメラから死角になる場所への駐車は避けましょう。やむを得ず路上に駐車する際も、照明のない場所や人通りの少ない場所への駐車は避けましょう。

(2) 駐車時の注意

- 窓の閉め忘れや、施錠忘れに気を付けましょう。
- 車内の見える場所に現金、貴重品、鞆などを放置しないようにしましょう。
- 車外から見える状態で名前、住所、連絡先が記載されている物を放置すべきではありません。

(3) 故障や整備の注意事項

- ・自動車が故障した時は、正規代理店やその他信頼できる店に修理を依頼しましょう。
- ・定期的に車の外観、ライトやタイヤの状態を確認しましょう。冬期は例年、路上の凍結や降雪があります。冬タイヤの装着は法律で義務づけられていますので、シーズン前に確実に行ってください。

5 外出時の安全対策

(1) 一般的注意事項

- ・周囲に気を配り、隙を見せないようにしましょう。犯罪者は犯行前にターゲットを絞り、行動を観察しています。
- ・心当たりなく見知らぬ人に話しかけられた際には、相手にすることなく、バッグやポケットを押さえるなど注意を払っていることを示しましょう。犯罪者が複数である可能性もあるので、話しかけてきた人のみならず、周囲の人や状況にも注意しながら、その場を離れるようにしましょう。
- ・貴重品は、ズボンや上着の外ポケットなど容易に取り出せる場所に入れないようにしましょう。また、バッグやポケットのファスナーなどを開けたままにしておいてはいけません。
- ・貴重品は、複数の場所に分散して収納し、不幸にして犯罪被害に遭ってしまった場合でも、被害が最小限となるよう工夫をしましょう。
- ・犯罪に遭遇しても、犯行者が銃やナイフなどの凶器を所持している可能性がありますので、状況によっては、抵抗せずに身の安全を最優先にしてください。
- ・商店やレストランで会計をする際や、ATMで現金を引き出す際には、特に注意が必要です。ATMは、銀行の建物内に設置されている機械を利用するようにしましょう。
- ・薬物やアルコールの中毒者（目つきがうつろである、歩行がおぼつかない、アルコール臭がするなど）や酩酊している者には近づかないようにしましょう。声をかけられても無視して立ち去るようにしましょう。

(2) バス・トラム・電車に関する注意事項

- ・バス、トラム、地下鉄などを利用する際、車内のみならず、停車場・駅構内、切符売り場、エスカレーターなどでも警戒を怠らないようにしましょう。
- ・車内で居眠りはしないようにしましょう。また、携帯電話の操作や同行者との会話に気を取られすぎないようにし、所持品への注意を欠かしてはいけません。
- ・周囲の不審な人物に注意しましょう。乗車時の車内や自分が並んでいる列の前後に不審な人物がいる場合には、別の扉から乗車するなどして不審な人物から距離を取りましょう。

(3) タクシーに関する注意事項

・正規タクシーであることを確認しましょう。ブカレスト市の正規タクシーの特徴は、以下のとおりです。

- ① 車体の左右に許可プレートが装着されている
- ② 車体が黄色である
- ③ 屋根上に「TAXI」の標示と緑及び赤のランプが設置されている
- ④ 車体の左右に会社名が記載（個人タクシーの場合は会社名がない）されている
- ⑤ 運転席と助手席のドアに1 kmあたりの運賃が表示されている

ブカレスト市の正規タクシーの確認方法



- ① 車体の左右に許可プレート（左写真参照）が装着されている
許可番号
車両番号（ナンバープレート）
有効期限
- ② 車体が黄色である
- ③ 屋根上に「TAXI」の標示と緑色及び赤のランプが設置されている
- ④ 車体の左右に会社名を記載（個人タクシーの場合は会社名がない）されている
- ⑤ 運転席と助手席のドアに1 kmあたりの運賃が表示されている

ヘンリ・コアンダ（オトペニ）国際空港におけるタクシー配車機利用案内

空港到着ロビーに出ると、正規タクシーを配車できるタッチパネル式機械が設置されています。操作後に機械から出てくる配車票は、犯罪被害に遭った際に役立つので、運転手に渡さないようにしましょう。

- ① 黄色の配車機の画面から表示される複数のタクシー会社の中からタッチパネルで1社を選択し、機械から出てくる配車票を取ります。
- ② 配車票に記載の番号（タクシーのリアガラス後部に記載）のタクシーに乗車します。



- ・非正規タクシー（白タク）は利用しないようにしましょう。
タクシー乗り場で声を掛けられても、安易に乗車すべきではありません。
- ・乗車の際には、タクシー会社名、ナンバーなどをメモしましょう。
- ・乗車前に行先を確認し、乗車後直ちにドライバーに告げましょう。
乗車前に行先の名前や場所を確認しておき、土地に不案内な様子を見せないことにより、不要な遠回りを防止することに役立ちます。
- ・初めての場所に行く場合には、事前に知人や第三者から概ねの料金についての助言を得た上で、乗車前に運転士と料金を確認しておきましょう。
- ・正規タクシーに乗車した場合であっても、ドライバーが発進時に料金メーターを作動させたかどうか確認するようにしましょう。
- ・流しのタクシーは極力利用せず、配車スマートフォンアプリや高級ホテルのホテル呼出しサービスを利用しましょう。
- ・ブカレスト市内では、「Star Taxi」、「Speed Taxi」、「Meridian Taxi」などのタクシー会社のスマートフォンアプリや「Uber」、「Bolt」、「Black Cab」などの配車スマートフォンアプリも広く利用されており、こうしたアプリを利用することが望ましい。

6 犯罪被害に遭ってしまったときの措置

(1) 警察への届出

被害に遭っている又は被害から間もないなどの緊急時には緊急電話ダイヤル「112」番、緊急性のない場合には、管轄の警察署に届け出てください。なお、警察署の所在などが不明である場合には、当館に連絡（電話：(021)319-1890～1）いただければ、お手伝いが可能です。

不幸にして犯罪（未遂や財産的実害がなかった場合も含む）被害に遭われた際は、当館にも被害の報告（電話：(021)319-1890～1）をしてください。

(2) 被害証明書の取得

被害に関する保険金などの請求には、警察が発行する被害証明書が必要です。また、当国政府発行の身分証の再発給にも、警察署からの証明書が必要となる場合があります。

(3) 旅券の再発給

旅券が盗まれた場合には、当館で再発給の申請を行って頂く必要があります。再発給には、警察署の発行する被害証明書が必要となります。

(4) 通訳者《ルーマニア法務省認定通訳》の選定

警察から通訳を介して書類の作成などを求められることがあります。日本語通

訳が可能なルーマニア法務省公認通訳者の一部は以下のとおりです。なお、当館が仲介をするわけではなく、依頼内容や料金などは、依頼者が個別に確認してください。

氏 名	連絡先電話番号
Emil POP	(021) 3 2 1 - 3 9 8 7、 0 7 2 3 - 6 0 7 - 5 6 7
Florin POPESCU	0 7 2 9 - 9 5 9 - 0 9 9
Simona MICLOȘ	(021) 2 2 2 - 2 1 5 2、 0 7 2 2 - 7 0 0 - 5 6 7
Ana-Maria APOSTOL	0 7 2 3 - 7 7 5 - 0 7 1
Ioana ATANASIU BANNER	0 7 2 2 - 6 2 9 - 7 1 9
Laura DANILEVICI	0 7 2 4 - 4 5 3 - 8 7 7
Oana ROMAN TARCINIU	0 7 3 1 - 3 6 4 - 3 0 5

7 デモなどの発生時の注意事項

ルーマニアでは、政治情勢などに関連して、大規模な抗議活動が発生することがあります。最近では、2021年12月にブカレスト市内でワクチンおよびグリーン証明書法制化に反対するデモが数千人規模で行われたほか、2018年8月にはブカレスト市のピクトリア広場で10万人規模と言われる反政府デモが行われ、一部のデモ参加者が暴徒化して治安部隊と衝突して多数の負傷者が発生しています。

在留邦人の皆さまにあっては、たびレジや当地報道などにより関連情報の入手に努めるほか、不測の事態に備えて、デモが行われている場所にはできる限り近づかないよう、自らの安全確保に十分注意してください。

8 野犬対策

ルーマニアでは、革命（1989年）以降、人が野犬に噛まれる被害が急速に拡大しました。ブカレスト市内では、2006年に邦人男性が野犬に噛まれて死亡した事案が発生したほか、2013年には、4歳児のルーマニア人が野犬に何カ所も噛まれて死亡するという事案も発生しています。

近年は、行政当局による野犬対策も進み、ブカレスト市中心部で野犬を見かけることはほぼなくなりましたが、ブカレスト市郊外及び地方都市では依然として野犬（飼い犬の場合もある）に噛まれて負傷する事案や時には死亡する事案も未だに発生しています。野犬・飼い犬を問わず、鎖につながれていない犬には近寄ることのないよう、十分注意をしてください。

9 交通安全対策

道路環境は日本に比べて劣悪であると言わざるを得ません。具体的には、道路交通標識・表示が不足または不明瞭、舗装道路でも穴や凹みが多い、未舗装な道路が多い、雨天時に路側に大きな水たまりができる、ガードレールが設置された歩道は非常に少ない、道路街灯が不十分で夜間の視認性が悪い、高速道路が未発達といった状況が挙げられます。

また、都市部における駐車施設の不足から、車道への違法駐車は至る所で見られるほか、歩道にも駐車車両が多数あって歩行者の通行に大きな支障が招いています。さらに、道路交通法規に従わないドライバーも多く見られ、速度超過や交差点等における指定通行区分違反が横行しています。

このような状況下で、ルーマニアにおける交通死亡事故発生率はEU域内で最悪の数値となっており、車を運転する際、歩行者として道路を通行する際を問わず、周囲の状況に十分注意をする必要があります。

(1) 一般的心構え

- 日本と違って左ハンドル、右側通行です。特に大きな交差点付近では通行車線に注意が必要です。また、日本人に馴染みのないラウンドアバウトへの進入、信号や引き込み車線のない道路での左折、信号のない脇道から大通りへの進入時には細心の注意を払って下さい。
- 出発前にタイヤやライトなどが正常かどうかを確認しましょう。道路上の落下物などにより、気がつかないうちにタイヤがパンクしていることがあります。
- ブカレスト市内ではキックスクーターが多く見られます。車両を運転する際のみならず、歩行者として歩道を通行する時にも接触事故に巻き込まれないよう注意が必要です。
- 道路交通違反行為に注意しましょう。
 - ✓ 飲酒運転は絶対にしてはいけません。
 - ✓ 車両乗車時にはシートベルトを締めましょう。
 - ✓ お子様の年齢に応じて、チャイルドシート（3歳未満、身長135cm未満は必ず）をしっかりと装着しましょう。
 - ✓ 携帯電話を操作しながらの運転は禁止されています。
 - ✓ 冬期は、冬用タイヤの装着が義務付けられています（当地は積雪があるほか、道路が凍結することも珍しくありません）。

(2) 自動車運転時の注意事項

- 交通の流れや他車の動向を十分に意識して、事故に巻き込まれないような運転を心がけましょう。
 - ✓ 運転中は「相手車両が・・・してくれるはずだ」という認識に頼るべきではありません。
- 車両運転時は、ミラーや目視で周囲の状況を常に確認しましょう。
 - ✓ 車線や道路標示が不鮮明なことが多く、車線がはっきり分からない道路が

- 多く見受けられます。初めて通行する道路では特に注意が必要です。
- ✓ 近くの車両が、急に車線変更したり、指定通行区分に従わずに右左折したりするケースが多く見られます。
 - 信号機や横断歩道標識を常に意識しましょう（横断歩道は、歩行者優先です。夜間は特に注意が必要です）。
 - ✓ 日本に比べ、信号機が見えにくい場所に設置されている場合が多いほか、夜間は街灯も不十分で横断歩道を横断中の歩行者も見えにくい場合が多いです。
 - ✓ 先行する車が横断歩道の歩行者を渡らせるために急停止することもあります。追突事故を起こさないためにも車間距離を確保しましょう。
 - ✓ 各種道路標識・標示に注意を払うことはもちろんのこと、こうした標識・標示が不鮮明であったり、駐車車両のために見えにくくなったりしていることもあります。
 - 道路の陥没・段差・水たまりに常に注意しましょう。また、こうした陥没・段差・水たまりを避けようとして急な車線変更をする車にも注意しましょう。
 - ✓ 当地では、道路の陥没・段差・水たまりが随所に見られるほか、道路工事も頻繁に行われています。道路工事には交通誘導員が配置されていない場合が多いので注意が必要です。

（3）歩行者としての注意事項

- 横断歩道では、走行車両が確実に停車するのを待ってから渡り始めましょう。
 - ✓ 横断歩道を渡ろうとする歩行者に対して、直前まで歩行者に気づかない車両が見受けられます。特に、夜間はドライバーにとって視認性が悪いので、夜間に暗い道路を通行する歩行者は反射材を衣服や所持品に装着するなどしてなるべく目立つように心がけましょう。
- 駐車車両を避ける際には、通行車両に注意してください。
 - ✓ 路上のみならず、歩道に駐車する車両も至る所で見受けられます。歩行者が歩道を通行できずに車道を通行しなければならないことも多く、車道を歩かざるを得ない場合には通行車両に十分注意をしてください。

（4）物損車両事故への対応

- 管轄する警察の交通事故処理事務所に原則24時間以内に出向いてください。
 - ✓ 警察官が事故の責任を判断し、自動車を修理するための「自動車修理許可書」が発給されます。
- 交通事故処理事務所へ持参する必要がある証明書などは予め車内に積んでおきましょう。
 - ✓ 身分証明書、運転免許証又は国際運転免許証（国際運転免許証使用時は日本の免許証を携帯のこと）、自動車登録証明書、強制保険証書、任意保険証書又はそのコピー。

(5) 人身交通事故への対応

- ・負傷者への対応を最優先した後、112番（緊急通報ダイヤル）に通報して警察官（怪我の程度に応じて救急車）を呼んで下さい。
- ・警察車両・救急車を待っている間、二次的な交通事故に巻き込まれない、又は発生させないように三角表示板を活用して後続車両に事故発生を知らせるほか、むやみに車道で待機しないようにしてください

(6) 自動車保険制度

- ・車両所有者は、強制保険に加入する必要があります。
 - ✓ 強制保険は、第一当事者（加害者）から第二当事者（被害者）に対し、修理などに要する費用が支払われるものです。強制保険では第一当事者の車両への修理費用は支払われませんので、任意保険にも加入しましょう。

10 テロ・誘拐・爆弾対策

(1) テロ・誘拐情勢

- ・ルーマニアにおいては、近年、テロの発生はなく、テロ組織の存在も確認されていません。当局は現時点で差し迫った具体的な脅威は認められないとして、国内のテロ脅威度評価について、4段階での色別評価中、2番目に脅威が低い「注意レベル（ブルー）」を維持しています。
 - ✓ ISIL（いわゆるイスラム国）は、2015年に公開したオンライン機関誌「ダービク」において、攻撃対象である「十字軍連合」として米国や日本のほかルーマニアも名指ししているほか、過去には国内で、イスラムテロ組織が発するプロパガンダに影響されて過激化した者が摘発される事案も見られています。
- ・誘拐情勢（ルーマニアでは刑法に誘拐のみを規定した条文がなく、誘拐行為は監禁行為とともに「不法に他者の身体の自由を拘束する罪」に該当）に関し、ルーマニアでは誘拐事案の発生件数は公表されていないものの、報道などを見る限り、身代金目的等の誘拐事件の発生は少ないものと見られます。

(2) テロ（爆弾）遭遇時の対処要領

- ・落ち着いて、周囲の状況を把握するように努めて下さい。
- ・銃声や爆発音が聞こえた場合は、身をかがめながら近くの物陰に移動して身の安全を確認しましょう。
 - ✓ 動くことで、犯人のターゲットになるほか、爆弾の破片や爆風の被害に遭いやすくなります。
- ・現場から離脱する必要がある場合も、なるべく身を低くするほか、利用できる物で自分を覆うなどして移動してください。

- ✓ 離脱する方向は、爆発音や銃声の方向をよく聞き、基本的には逆の方向に向かうべきですが、おびきよせによる二次攻撃もありえますので、混乱の中に身を投じることは得策ではありません。治安機関が到着している場合には指示に従ってください。
- テロリストの侵入事案などの場合には、身動きせずに、治安機関の到着・救助を待つ必要があります。
 - ✓ 身を隠す際には、携帯電話など音が鳴る物はマナーモードにしてください。テロリストは、物音（特に携帯電話の音）に敏感となっているので、音を立てないように最善の注意を払う必要があります。

11 自然災害対策

ルーマニアは地震国であり、大地震が発生する周期は30年程度とも言われています。前回1977年3月の地震（マグニチュード7.2、地震による死者は約1,600人）から、40年以上経過していることから、近い将来、大地震が発生する確率は日ごとに増えています。

(1) 平素からの心構え

地震や大規模自然災害が発生した際は、建物の倒壊や道路の陥没などで交通が麻痺したり、通信網が遮断されたりすることを想定しておきましょう。

- 平素から家族や知人とは、有事の際の集合場所を決めておきましょう。
 - ✓ ブカレストであれば当館のほか、自宅近くの公園・広場など。
- 在ルーマニア日本国大使館
 - 住所 AmericaHouse EastWing、8th Floor
 - 4-8 Nicolae Titulescu、Sector 1、Bucharest
 - 電話：(021) 319-1890～1
- 自宅や勤務先には、飲料水、食料（缶詰など）、医薬品、マスク、手袋、ヘルメットなど災害グッズを備えましょう。
 - ✓ 家族全員が10日間程度生活できる物資を準備しておきましょう。
 - （Ⅱ 緊急事態対処マニュアル、別添【緊急事態に備えてのチェックリスト】参照）
- 旅券や現金など最低限必要な物を直ちに持ち出せるよう、保管場所を決めておきましょう。
 - ✓ 保管場所は家族で共有しておきましょう。
- ルーマニア内務省によるスマートフォン用アプリ「DSU」（ルーマニア語）では、災害などの情報の受信や避難場所、救急施設の場所や連絡先などが確認できます。

- ルーマニア内務省の地震関連サイト（ルーマニア語）では、地震発生に備えての知識や地震発生時の対応要領が掲載されています。

<http://nutremurlacutremur.ro/>

EARTHQUAKE PREPARATION AND PROOFING

- Wall mount your furniture so it doesn't slide in case of an earthquake.
- Place heavy objects low in the house, in order to avoid injuries.
- Make plans to supply for water and electricity, as both these resources are likely to be scarce to none in case of an earthquake.
- Stack up non perishable food items, batteries, flashlights, matches, portable radio, basic and known prescription medication. Make your emergency bag.
- Localize all critical switches and taps in the home. Also, be aware of how they're switched on/off.
- Take part in the emergency drills at work.
- Draw up a family earthquake plan. Each family member must know what to do during/after an earthquake. Set a rally point for your family, in case communications are interrupted.

EARTHQUAKE BEHAVIOUR RULES

- Keep calm and comfort others.
- If you are inside a building, DO NOT exit or use the staircase/elevator.
- Keep away from windows, exterior walls or other objects that might injure you.
- Switch off fire sources. Do the same for the gas pipe inside your home.
- Take cover against a door frame, resistance wall, under a beam or next to a sturdy piece of furniture.
- If outside, keep away as much as possible from buildings, poles and electricity cables, trees or other pieces of structure that can cause harm.
- If driving, stop your car in an open area and wait inside the car. Do not park under bridges, near buildings, trees, poles, electricity cables or other risky pieces of structure.
- DO NOT touch broken/fallen electricity cables.
- If in a crowded area (theatre, cinema, mall) DO NOT run for the exit. Stay calm and comfort the others. Panic can always cause more damage than the earthquakes.
- If in public transportation, stay calm, in your spot, until the shake is over.

AFTER AN EARTHQUAKE

- Comfort the others and give first aid, if necessary.
- Check your home for damages. If you smell gas, open the windows, switch off the gas tap and avoid using open flame and the electrical installation.
- In order to avoid crowding the telephone lines, use the phone only to call police, firefighters, ambulance etc.
- Tune in the national radio or tv (if available). Follow the instructions.
- If you need to leave your home, do not forget about the emergency pack.
- Check stairs visually and proceed with caution. If the doors are blocked, keep calm and try to unblock them. If the doors cannot be unblocked, and if the height allows, you can break a window and use it as exit.
- Do not use your car unless it's an emergency. Roads must be clear for the emergency responders.
- Keep clear from buildings.
- If caught under debris, use a hard object and hit against a wall, pipe or furniture, at regular intervals.
- Be prepared for aftershocks.

POPULATION INFORMATION AND TRAINING CAMPAIGN OF MINISTRY OF THE INTERIOR AFFAIRS EMERGENCY SITUATIONS DEPARTMENT BY GENERAL INSPECTORATE OF EMERGENCY SITUATIONS

in partnership with **e-on**

more info: www.nutremurlacutremur.ro

DON'T SHAKE FOR THE QUAKE

ARE YOU PROTECTED IN CASE OF EARTHQUAKE? IS YOUR HOME QUAKE SAFE? IS THERE A FAMILY EMERGENCY PLAN IN PLACE?

(2) 地震発生時の対応

- 揺れが収まるまで机の下に身を隠すなど、身の安全を確保しましょう。
- 揺れが収まった後に屋外に避難する際も、エレベーターを使用せず、階段を使用しましょう。
 - ✓ ルーマニアでは、古い建物も多く、階段が部分的に崩壊していることもあるので、慌てず破損状態や強度を確認しながら下りましょう。
- 屋外では、頭上からの落下物（窓ガラス、壁、看板、室外機など）に注意するほか、避難する際も断線した電線やガス漏れの臭気がする場所には近寄らないようにしましょう。

Ⅱ 緊急事態対処マニュアル

1 平素の心構えと準備

(1) 連絡体制の整備

ア 在留届の提出

緊急事態発生時、当館では「在留届」を基に皆様の所在地や緊急連絡先を確認し、電話やメールなどを通じて安否確認や必要な救護を行います。皆様の身を守るためにも在留届の提出を行ってください。

また、引越しや転勤、電話番号などに変更があった場合には、速やかに大使館領事班までご連絡ください。

イ 「たびレジ」の活用

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

外務省海外安全情報配信サービスである「たびレジ」に登録すると、情報を希望した国の大使館・総領事館から発信される安全情報がメールで届きます。また、大規模な事件・事故、テロ、自然災害が発生した場合にも、大使館・総領事館から緊急のメールが届き、安否確認などを受けることができます。ルーマニアに限らず、外国に出かけられる際には、登録されることをお勧めします。

ウ 連絡方法の確認、通信手段の確保

緊急事態発生の際には、大使館からメール・電話などで必要な連絡を行いますが、緊急時に備えて家族間、企業内での緊急連絡方法について日頃から決めておき、連絡方法を確認しておいてください。

エ NHK海外放送の受信

緊急事態発生時には、正しい情報の入手が極めて重要です。現地の報道を入手するのみならず、NHK海外放送の受信もお勧めいたします。

NHK海外放送は、インターネット「NHKワールド・ラジオ日本」のホームページからも視聴可能です。

<https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/anzen/>

NHKラジオ国際放送を受信するには、上記ホームページの他、公式アプリ（iPhone、Android）や短波放送でも受信可能です。

NHKのラジオ国際放送は、6MHzから21MHzの周波数帯で放送しています。この周波数帯が受信できる国際放送対応の短波ラジオをご用意ください。短波は季節や時間によって伝わり方が変わるため、周波数を使い分けています。最新の周波数や放送時間帯については「NHKワールド・ラジオ日本」のホームページをご覧ください。

https://www3.nhk.or.jp/nhkworld/ja/japanese/radio_japan/

(2) 一時避難場所及び緊急時避難先

ア 一時避難場所の検討

緊急事態が発生した場合の避難場所について、常日頃から頭に入れておき、発生時間別に自分がどこにいるのか（職場、学校、自宅、通勤途中など）、どのような事態に巻き込まれる可能性があるかを想定しておきましょう。また、あらかじめ避難場所を検討し、家族や知人と共有しておいてください。

イ 緊急時避難先

緊急事態発生時、状況により大使館から緊急避難先を指定し、避難・参集をお願いする場合があります。避難先となり得る当館の場所・連絡先は次の通りです。大使館までの複数の経路を検討しておいてください。

○ 在ルーマニア日本国大使館

住所 AmericaHouse EastWing、8th Floor

4-8 Nicolae Titulescu、Sector 1、Bucharest

電話：(021) 3 1 9 - 1 8 9 0 ~ 1

(3) 緊急事態における携行品など、非常用物資の準備（別添【緊急事態に備えてのチェックリスト】参照）

旅券、現金など最低限必要なものは直ちに持ち出せるよう準備しておいてください。一方、非常事態が発生した場合、一定期間自宅で待機することを強いられる場合や、商店の閉鎖によって物資の購入が困難になる場合もあります。あらかじめ家族全員が10日間生活できる程度の非常用の食料、飲料水、医薬品などを準備しておいてください。

2 緊急事態発生時の行動

(1) 情報の把握

緊急事態が発生し、又は発生するおそれがある場合、当館では邦人保護に万全を期するため、当館のホームページや、たびレジ、在留届に記載されたメールアドレスなどに必要な情報を発信致します。在留邦人の皆さまにあっても、当館から発信される情報のほか、報道機関による情報入手に努め、流言飛語に惑わされないようご注意願います。

(2) 大使館への通報など

ア 緊急事態の発生に限らず、多くの人と共有することが有用だと思われる事件・事故に遭遇した場合は、ぜひ当館まで連絡してください。特に邦人の生命、身体、及び財産に被害が及び、若しくは及びおそれがある場合には、迅速にその状況を当館まで連絡してください。

イ 緊急事態発生の際には、互いに助け合って事態に対応することが重要です。当館から在留邦人の方々にも種々の助力をお願いすることもありますの

で、可能な限りご協力をお願い致します。

3 緊急連絡先

(1) 警察・消防・救急（緊急ダイヤル）

112

(2) 救急病院の一部（番号は電話番号）

- Spital Sanador（サナドール病院）
021-9699（コールセンター）
- Spitalul Clinic de Urgenta Floreasca（フロレアスカ救急病院）
021-599-2300、021-599-2308
- Spitalul Euroclinic（ユーロクリニック）
021-9268（コールセンター）
- Spitalul de Pediatrie MedLife Bucureşti（ブカレスト・メドライフ小児病院）
021-9646（コールセンター）
- Spitalul Clinic de Urgenta pentru Copii Grigore Alexandrescu（グリゴレ・アレクサンドレスク小児救急病院）
021-316-9366、021-316-9372
- Spitalul Clinic de Urgenta pentru Copii “M.S.Curie”（マリー・キュリー小児救急病院）
021-460-4260、0800-800-951（フリーダイヤル）

4 緊急時のルーマニア語

- 「はい」＝ダー（Da）
 - 「いいえ」＝ヌー（Nu）
 - 「助けて」＝アジュトール（Ajutor）
 - 「泥棒」＝ホツター（Hoțul）
 - 「警察」＝ポリツィア（Poliția）
 - 「警察を呼んでくれ」＝ケマツィ・ポリツィア（Chemați poliția）
 - 「病院」＝スピタル（Spital）
 - 「救急車を呼んでくれ」＝ケマツィ・サルバーレア（Chemați salvarea）
 - 「気分が悪いのです」＝ミィエ・ラウ（Mi-e rau）
 - 「消防車を呼んでくれ」＝ケマツィ・ポンピエリ（Chemați Pompierii）
※ 日本語の「火事だ」に文字通りに相当する言葉はありません。
 - 「誰か英語を話す人はいますか」＝エステ・チネヴァ・カレ・ヴォルベシュテ・エングレザ（Este cineva care vorbește engleza?）
 - 「日本大使館はどこですか」＝ウンデ・エステ・アンバサーダ・ジャポニエイ（Unde este Ambasada Japoniei?）
- （なお、大使館の所在地は「ショセアワ・ニコラエ・ティトゥレスク・ヌマル・パ

トル・リニウツァ・オプト・アメリカ・ハウス・アリパ・デ・エスト・エタアジュ
ル・オプト・セクトール・ウヌ・ブクレシュティ (şoseaua Nicolae Titulescu Nr. 4-
8 America House Aripa de Est Etajul 8 Sector 1 Bucureşti) 」です。)

○ 「日本大使館へ電話して」=スナツィ・ラ・アンバサーダ・ジャポニエイ
(Sunați la Ambasada Japoniei)

(なお、その場合の電話番号は、「スナツィ・ラ・アンバサーダ・ジョポニエイ テ
レフォヌ ゼロ・ドイ・ウヌ・トレイ・ウヌ・ノワ・ウヌ・オプト・ノワ・ゼロ
(Sunați la Ambasada Japoniei telefon 021-3191890) 」です。)

【緊急事態に備えてのチェックリスト】

□ 旅券

- ① 旅券については、6か月以上の残存有効期間があることを確認してください（有効期間が6か月以下の場合には、在留先の在外公館に対して旅券切替発給を申請してください）。
- ② 旅券の最終頁の「所持人記載欄」は漏れなく記載しておいてください（なお、紛失などの場合にも、これが手かがりとなって比較的速やかに手元に戻った例もあります。）。不慮の事故に巻き込まれた場合に備え、血液型も記入しておくことをお勧めします。
- ③ 旅券と併せ、身分証明書、滞在国の外国人登録証明書、滞在許可証などもいつでも持ち出せる状態にしておいてください。なお、出国や再入国に係る許可は常に有効な状態としておくことが必要です。

□ 現金、貴金属、有価証券、クレジット・カードなど

旅券とともにすぐ持ち出せるよう保管しておいてください。現金は家族全員が10日間程度生活できる外貨及び当座必要な現地通貨を予め用意しておくことをお勧めします。

□ 自動車などの整備

- ① 自動車をお持ちの方は常時整備しておいてください。燃料も常に半分以上備えておく心安心です。
- ② 車内には、スペアタイヤ、三角表示板、医薬品、懐中電灯、地図、ティッシュなどを常備してください。
- ③ なお、自動車を持っていない方は、近くに住む自動車保有者と平素から連絡を取り、必要な場合に同乗できるよう相談しておいてください。

□ 携行品の準備

避難場所への移動を必要とする事態に備え、旅券などのほか次の携行品を常備し、すぐ持ち出せるようにしておいてください。なお、退避時の飛行機内への持ち込み制限も考慮し、携行品は20kg程度にまとめておくことをお勧めします（自衛隊機などを含め、機種によっては搭乗前に10kg程度にまとめることを求められる場合もあります）。

□ 衣類・着替え

長袖・長ズボンなど行動に便利で、天候・季候の変化にも耐えうるものをご準備下さい。防寒着等の衣類のほかにも、毛布類を必要数準備しておくことが推奨

されます。

履物

行動に便利で靴底の厚い頑丈なもの

洗面用具

タオル、歯磨きセット、石鹸など

非常用食料など

一定期間、自宅待機せざるを得ない場合も想定して、米、調味料、缶詰類、インスタント食品、粉ミルクなどの保存食及びミネラルウォーターを家族全員が10日間程度生活できる量を準備しておきましょう。

医薬品

家庭用常備薬のほか常用薬（必要に応じて医師の薬剤証明書（英文））や救急キット（外傷薬、消毒薬、衛生綿、包帯、絆創膏、マスクなど）を準備しておきましょう。

ラジオ

F M放送受信可能で、NHKワールド・ラジオ日本、BBC（British Broadcasting Corporation）、VOA（Voice of America）などの短波及びF M放送が受信可能で、電池式のもの。

その他

懐中電灯、予備電池、ライター、マッチ、ろうそく、ナイフ、缶切り、栓抜き、紙製食器、割り箸、固形燃料、簡単な炊事用具、ヘルメット、防災頭巾（応急的に椅子に敷くクッションなどでも可）、携帯電話充電バッテリーなど